

第1章



それはいつのこと?

現在・過去・未来の時制

1 be動詞と一般動詞

動詞には、be動詞と呼ばれるものと一般動詞と呼ばれるものがあります。

◆ be動詞

「主語は～です [だ]」という内容を表したいときに使う動詞を ^{ビーどうし} be動詞 といいます。



be動詞には、^{アム} am ・ ^{アー} are ・ ^{イズ} is ・ ^{ワズ} was ・ ^{ワー} were があるよ!

Mike ^{is} a student.
主語 be動詞

(マイクは学生です。)



◆ 一般動詞

am ・ are ・ is ・ was ・ were

be動詞以外のすべての動詞を ^{いっぽんどうし} 一般動詞 といいます。一般動詞は、「主語は～します [する]」という内容を表したいときに使います。

Mike ^{plays} tennis.
主語 一般動詞

(マイクはテニスをします。)



「です」や「します」という内容を表す動詞は、日本語では文の終わりに書かれるけど、英語では主語(「～は」という意味を表す語)のすぐ後ろに書かれるよ!

2 基本 3 時制

◆ 現在・過去・未来の表し方

英語では、動詞を変身させることで、「時間の関係 (= ^{じせい} 時制)」を示すことができます。

▶ play という動詞の現在・過去・未来

現在 (する)	過去 (した)	未来 (するだろう)
play (そのまま) plays	played	will play

現在はそのままか「s」をつけ、過去は「ed」をつけます。また、未来は「will」という単語を動詞の前に書きます。動詞の多くは、このように変身させることで、現在・過去・未来を表すことができます。

それでは、練習です。

study という動詞を変身させて現在・過去・未来を表してください。

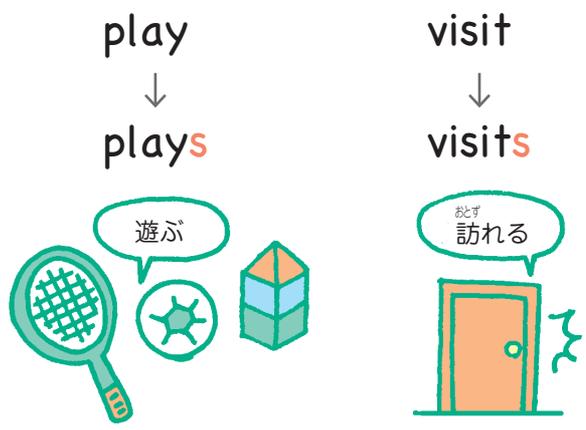
今、教えられたとおりに変身させると
 現在は study か studys、過去は studyed、未来は will study になりますが、実際には、現在は study か studies、過去は studied、未来は will study になります。

	習ったとおりにすると	実際には
現在	study studys	study <u>studies</u>
過去	studyed	<u>studied</u>
未来	will study	will study

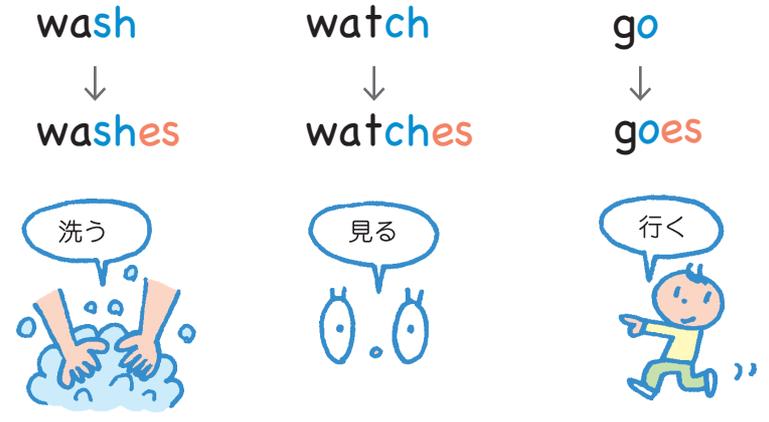
s や ed をつけるときには、そのままつけてはいけない場合があります。それではここで、s と ed のつけ方を覚えましょう。

◆ s (3単現の s) のつけ方

1 ふつうは s だけをつけます。



2 sh・ch・o で終わる動詞は、es をつけます。



3 しゅんじ 子音字 + y で終わる動詞は、y を ie にかえて s をつけます。

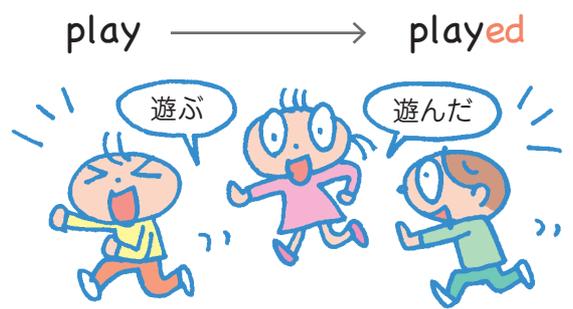


MORE 母音字と子音字

26 個のアルファベットの内、a・i・u・e・o を母音字、その他の文字を子音字と呼びます。
 ただし、y というアルファベットは母音字 (i と同じ発音) として使われる場合があります。

◆ ed のつけ方

1 ふつうは ed だけをつけます。



2 e で終わる動詞は、d だけをつけます。



3 子音字+y で終わる動詞は、y を ie にかえて d をつけます。



4 子音字+母音字+子音字 で終わる動詞は、最後の子音字をもう1つ書いて ed をつけます。



子音字+母音字+子音字で終わる動詞でも、子音字には含まれた母音字の上にアクセント（強く読むところ）がない場合は、4の法則は使えず、そのまま ed だけをつけるよ！

visit のアクセントは v のすぐ後ろの i のところ

visit (訪れる) → visited (訪れた)

子音字+母音字+子音字

◆ ed をつけずに過去を表す動詞

ここで、go という動詞の変身を見てみましょう。

▶ go という動詞の現在・過去・未来

現在 (行く)	過去 (行った)	未来 (行くだらう)
go (そのまま) goes	went	will go

過去のところが変ですね。play と同じように変身させると、goed になるはずなのですが、まったく違ったものになっています。

このように、過去を表すときに ed をつけない動詞を **不規則動詞** と呼びます。不規則動詞については、P.178 ~ 179 の不規則動詞の変化表をごらんください。



play や study のように、過去を表すときに ed をつける動詞は **規則動詞** と呼ぶよ！

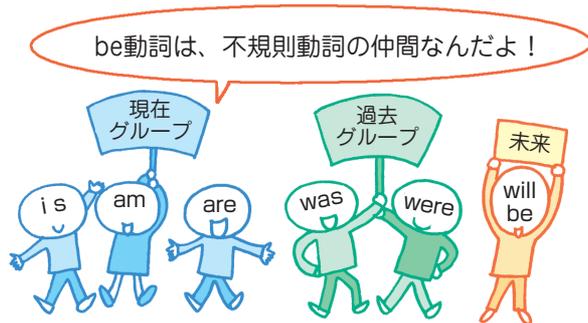
◆ be動詞の現在・過去・未来

最後に、be動詞の変身を見ておきましょう。

▶ be動詞の現在・過去・未来

現在（です）	過去（でした）	未来（なるだろう）
am is are	} was were	will be

不規則動詞の仲間である be動詞には、現在を表すものが3つもあり、しかも、そのままの形の be や be に s をつける「bes」というものはありません。また、過去を表すものは2つありますが、どちらにも ed はついていません。



◆ 現在を表す動詞の使い分け

「～です」という内容を表す be動詞には am, are, is の3種類のものがあり、主語が I(私は) の場合には am、主語が You(あなたは・あなたたちは) や複数形の場合には are、主語が I・You・複数形以外の場合には is を使います。

また、「～します」という内容を表す一般動詞には play, plays のように2種類のものがあり、主語が I・You・複数形の場合には play (s がつかないもの)、主語が I・You・複数形以外 (= 3人称単数形という) の場合には plays (s がつくもの) を使います。

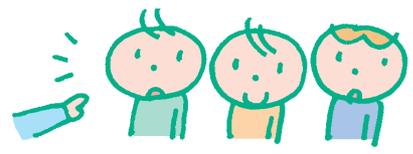
主語	be動詞	一般動詞
I	am	play (そのまま)
You・複数形	are	play (そのまま)
その他 (= 3人称単数形)	is	plays

共通している

◆複数形の主語

人や動物やものが2人〔匹・つ〕以上あることを表す複数形の主語としては、次の5つのものを覚えておきましょう。

1 You (あなたたちは)



2 We (私たちは)



3 They (彼らは・彼女らは・それらは)



4 and

【例】 Ryo and Ken



5 s

【例】 My sisters



※ 4 と 5 の は1つの単語を表す

◆3人称単数形

話をする人との関係は、^{にんしやう}人称ということばで表されます。人称には、次の3つのものがあります。

1人称：話をする人	I (私は), We (私たちは)
2人称：話をする相手の人	You (あなたは・あなたたちは)
3人称：話の話題に上がる人や動物やもの	I, We, You 以外のすべての名詞や代名詞

3人称を表すすべての名詞や代名詞の中から、複数形を表すものを取り除いたものを^{さんにんしやうたんすうけい}3人称単数形と呼びます。

MORE 名詞の単数と複数

1つ・2つ・3つ…のように数えられる名詞が1つ(=単数)のときには、名詞の前に「1つの」という意味を表す「a」や「an」という単語を書きます。また、数えられる名詞が2つ以上(=複数)のときには、名詞に「s」というアルファベットをつけます。

ただし、名詞の前に「my(私の)」などの単語が書かれてだれのものなのかわかるときや、「the(その)」や「this(この)」などの単語によって特定されるときには、1つの場合でも「a」や「an」はつけないので注意しましょう。

【例】 a dog 1匹の犬
 my dog 私の犬
 the dog その犬
 two dogs 2匹の犬

} my や the によって犬が特定されるので a をつけない

◆3単現のs

英語では、主語が**3人称**で**単数形**のとき、**現在の動作や状態**を表すすべての動詞に「s」というアルファベットをつけなければなりません。このsのことを**3単現のs**と呼びます。

現在の動作や状態を表す動詞の使い分けについては、まずbe動詞の使い分けのほうをしっかりと覚えましょう。そして、「もしbe動詞なら、isになるな」と思われる場合に、一般動詞にsをつけるようにします。

【例】適語を選びなさい。

He (play, plays) basketball.

※ Heが主語の場合、もしbe動詞ならisを使うので、sがついているplaysのほうを選ぶ
be動詞の使い分けについては、次の具体的なパターンを何回かつぶやいておけば簡単に覚えられますよ。はい、ごいっしょに……。



アイ アム ユー アー ウィー アー ゼイ アー
I am, You are, We are, They are,
カッコ アンド カッコ アー カッコ カッコエス アー
□ and □ are, □ □ s are,
それ以外は ^{イズ} is

◆過去を表す動詞の使い分け

「～しました」という内容を表す一般動詞の場合は、主語が何であっても同じものを使います。

また、「～でした」という内容を表すbe動詞にはwas, wereの2種類のものがあり、主語がIや3人称単数形の場合にはwasを使い、主語がYouや複数形の場合にはwereを使います。



wasの中にamのaとisのsがふくまれていることと、wereの中にareのreがふくまれていることを確認しておくとうまくなるよ！

was = w + a m + i s

were = we + a re

主語	be動詞	一般動詞	
		規則動詞	不規則動詞
I	was	played	went
You・複数形	were		
その他 (3人称単数形)	was		

◆未来を表す動詞について

動詞自身に「～するだろう」などの内容を表す形がないので、「will」という単語に助けをもらい「will 動詞」という形で未来の動作や状態を表すこととなります。

このとき、willの後ろの動詞は、sやedをつけない形(=原形と呼ぶ)にしなければなりません。be動詞の場合、原形はbeになるので「will be」という形を使います。



原形がbeなのでbe動詞という名前がつけられたんだよ！